

千葉県感染症発生動向調査情報

2015年 第36週 (8/31-9/6) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		36週	35週	34週	33週
小児科		18	18	18	17
眼科		5	5	5	5
インフルエンザ*		27	28	28	24
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 8/24-8/30 35週
		注意報	8/31-9/6	8/24-8/30	8/17-8/23	8/10-8/16	
			36週	35週	34週	33週	
小児科	RSウイルス感染症		0.17	0.28	0.06	0.00	0.38
	咽頭結膜熱		0.44	0.22	0.44	0.18	0.27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	1.39	0.94	0.78	1.53	1.25
	感染性胃腸炎		2.39	3.22	3.44	3.06	1.95
	水痘		0.28	0.17	0.33	0.12	0.19
	手足口病	↓★★★	8.28	8.44	7.89	8.24	5.50
	伝染性紅斑	○	0.83	0.72	1.00	0.82	0.55
	突発性発しん		0.94	1.06	0.83	1.12	0.54
	百日咳		0.00	0.17	0.17	0.06	0.05
	ヘルパンギーナ		1.11	2.00	2.06	2.65	1.68
流行性耳下腺炎		0.50	0.39	0.44	0.59	0.68	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0.00	0.00	0.00	0.04	0.05
眼科	急性出血性結膜炎		0.00	0.00	0.00	0.00	0.03
	流行性角結膜炎		1.00	1.60	0.40	0.00	1.26
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		1.00	1.00	0.00	0.00	0.33
	マイコプラズマ肺炎		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★★:流行中 ★★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(10件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	結核	男性	60歳代	病理学的特徴的所見
結核	男性	40歳代	IGRA検査	結核	女性	60歳代	病原体遺伝子の検出等
結核	男性	40歳代	IGRA検査等	結核	女性	80歳代	病原体等の検出等
結核	男性	50歳代	IGRA検査	アメーバ赤痢	男性	50歳代	病原体の検出
結核	男性	50歳代	病原体等の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	80歳代	病原体の検出

・結核8件(162)、アメーバ赤痢1件(6)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(20)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第36週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し1.39となった。過去10年の同時期と比べると多い。

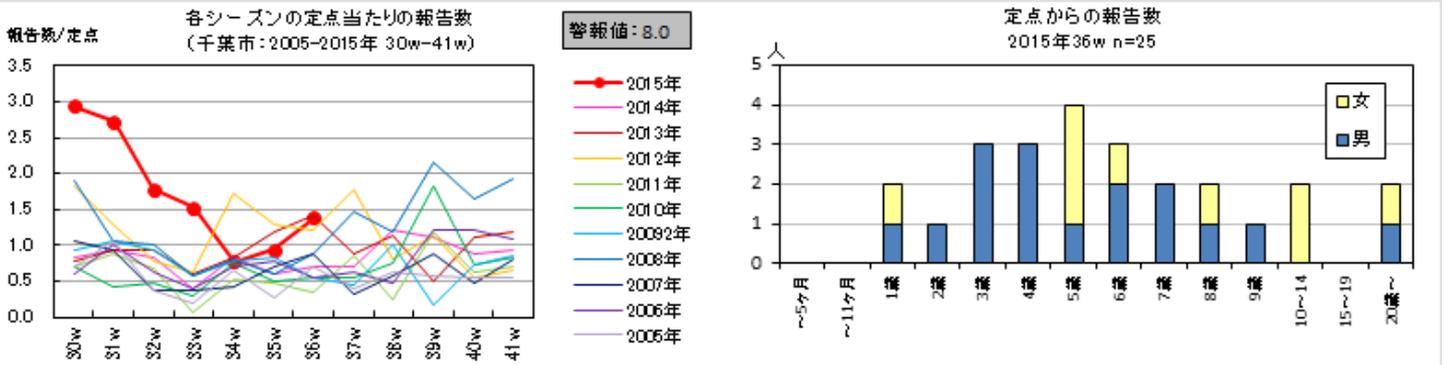
<手足口病> 前週より減少し8.28となった。流行発生警報開始基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多。

<伝染性紅斑> 前週より増加し0.83となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

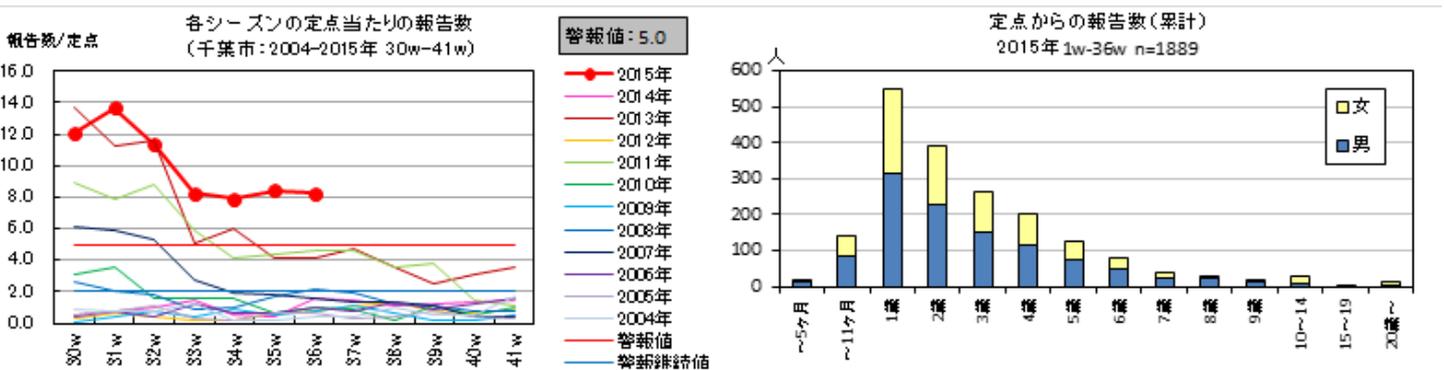
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルは第7週からほぼ連続して過去8年の同時期と比べて最多の状態が続いており、第35週現在も同様となっています。都道府県別では、鳥取県、山口県、静岡県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同じとなっています。千葉市の2015年第36週は前週から増加し1.39となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(3.5/定点)で最多で同区の4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週からの累積報告数(n=25)によると、性別では男性が64.0%(16名)、女性が36.0%(9名)で、年齢階級別では5歳(16.0%:4名)が最も多くなっています。



＜手足口病＞

全国レベルの第35週現在は、過去8年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、新潟県、長野県、青森県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや少なめとなっています。千葉市の2015年第36週は前週から減少し8.28となりました。過去10年の同時期と比べると最多で、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)は上回ったままです。区別の発生状況は、花見川区以外の全区で流行発生警報開始基準値を上回っており、稲毛区(17.3/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第36週までの累積報告数(n=1889)によると、性別では男性が57.8%(1092名)、女性が42.2%(797名)で、年齢階級別では1歳(29.1%:549名)、2歳(20.8%:393名)、3歳(14.0%:265名)の順に多くなっています。



＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第35週現在は、過去8年の同時期と比べると最多のままとなっています。都道府県別では、大分県、鹿児島県、長崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとほぼ同じとなっています。千葉市の2015年第36週は前週より増加し0.83となりました。過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、稲毛区(1.67/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を下回りましたが流行発生警報終息基準値(1.0/定点)は上回っており最多で、同区の4歳~6歳、8歳及び9歳で発生報告がありました。2015年第1週から第36週までの累積報告数(n=573)によると、性別では男性が53.8%(308名)、女性が46.2%(265名)で、年齢階級別では5歳(16.4%:94名)4歳及び6歳(共に14.7%:84名)の順に多くなっています。

